

Summary

昭和という時代を生きぬいた、かつての子どもたち

太平洋戦争の終戦から 80 年、世田谷区の平和都市宣言から 40 周年＊を迎える本年、生活工房では「子どもの暮らし」と「平和」について考える展覧会を開催します。

監修者の春日明夫氏(芸術学博士、東京造形大学名誉教授)は、日本における造形教育、子どもをめぐるデザイン研究の第一人者であり、造形教育の題材として世界中の玩具や関連資料を収集し、そのコレクションは 6,000 点を超えます。本展はその中から戦前～戦中～戦後に製作された双六(すごろく)・絵本・雑誌・玩具・文具・生活用品などを展示します。

大正モダニズムの影響から洗練された図案や意匠が生まれた戦前、戦中の軍部の権力と統制、戦後の連合国軍の占領下時代とそして高度経済成長期。それぞれの時代の社会情勢や教育、世相や流行が、子どもたちの暮らしには色濃く反映されています。特に戦時統制下は、当時の作者たちが制約や抑圧の中でぎりぎりの工夫をしながら創造、表現した苦悩がうかがえるものも多々あります。また、アートやデザインの影響力が戦意高揚のプロパガンダに利用されていた事実を伝えてくれます。そして戦後は一変して、世界の友好と平和、科学技術の進歩、マンガやアニメの正義の味方、ヒーローやヒロインなどがモチーフとなり、終戦直後の無彩色な社会が鮮やかに色彩を取り戻していく様が、展示資料には映し出されています。

おばあちゃんやおじいちゃん、お母さんやお父さんが子どもだった時代、そしてあなた自身の子どもの時代。昭和を生きぬいた、かつての子どもたちの可愛らしく楽しい、哀しくも美しい遊びや学びの道具から「戦争と平和」、「令和の子どもたちの未来」について考えてみませんか。

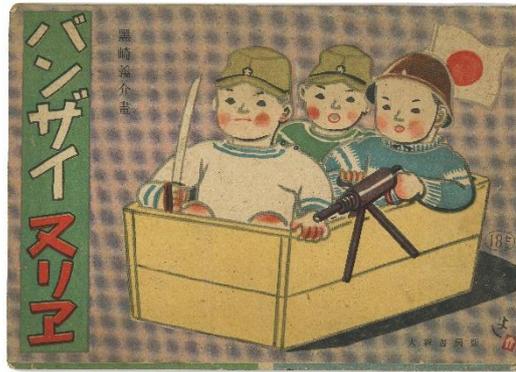
＊世田谷区は、核兵器の廃絶と世界に平和の輪を広げていくことを誓い、戦後 40 年の日にあたる 1985 年(昭和 60 年)8 月 15 日に、国の内外に向けて『平和都市宣言』を行いました。

Profile



監修者：春日明夫 かすがあきお

1953 年東京生まれ。東京造形大学名誉教授。芸術学博士、教育学修士。専門分野はキッズデザインなど、子どもをめぐるデザインや造形活動。主な研究内容は、造形教育学の視点からの創作玩具研究、民族・民芸の造形比較文化、ワークショップ活動。その研究の一環として世界の玩具や遊具、関係資料を収集している。



画像②「バンザイヌリエ」昭和18年

Outline

- タイトル 戦後80年企画・春日明夫コレクション
子どもの時代 一戦前・戦中・戦後 子どもをめぐる昭和の暮らしと文化展
- 概要
戦後80年の年に「子どもの暮らし」と「平和」について考える展覧会。造形教育、キッズデザイン研究者の春日明夫氏のコレクションから、戦前・戦中・戦後の子どもにまつわる
すごろく・絵本・雑誌・玩具・教科書・教材・文具・生活用品など約200点を展示。
- 会期 2025年8月19日(火)～2025年12月28日(日) 9:00～21:00
月曜休み(祝休日はのぞく) *11月9日(日)は休室
- 会場 生活工房ギャラリー(三軒茶屋・キャロットタワー3階)
154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1
TEL 03-5432-1543
www.setagaya-ldc.net
- 料金 入場無料
- 交通案内 東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋駅」直結
東急・小田急バス「三軒茶屋」停留所そば
- 主催 公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
- 協力 春日明夫、せたがや未来の平和館(世田谷区立平和資料館)、昭和の暮らし博物館、
造形教育センター
- 後援 世田谷区、世田谷区教育委員会

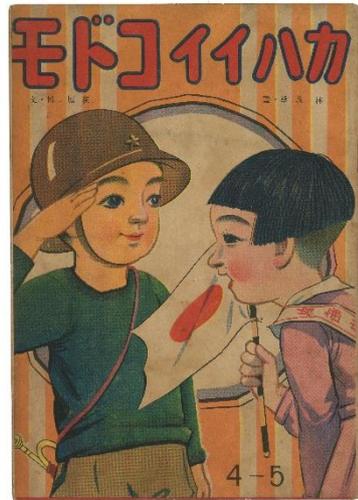
Point

**戦後80年をむかえた今、昭和の子どもたちが手にした・読んだ・遊んだ
雑誌や教科書、玩具などの資料約200点をとおして…**

- ◆大正時代に花開いた児童中心主義の新教育運動と、昭和に入り徐々に戦争一色へと染まっていった子どもの暮らしの実相を知る。
- ◆メディア・情報・教育・芸術がどのように利用され、戦争のプロパガンダがなされたか、軍国少女・少年が生まれたのか、その歴史を学ぶ。
- ◆敗戦直後に物資がなく、「MADE IN OCCUPIED JAPAN」(占領下の日本製)の刻印も義務づけられた状況において、玩具をはじめとした製造業から経済を復興し、国が高度経済成長へと向かう軌跡をたどる。



画像③ 少年兵が描かれた団扇 戦時中



画像④ 絵本「カハイコドモ」 昭和15年



画像⑤ 「自治振興絵ばなし 国を挙げて」 昭和15年



画像⑥ 戦車の木製玩具 戦時中



画像⑦ 「輝く日本双六」小学2年生正月号付録 昭和13年

Event

1 「昭和の子どもの暮らしと文化〈デザイン・美術・教育の視座から〉」

子どもたちが日頃から手にする玩具や絵本、絵雑誌やマンガ雑誌などには各時代の流行、社会世相や教育のねらいまでもが色濃く反映されています。特に明治中期から大正期、昭和初期・戦前、戦時下、戦後復興期、高度経済成長期までの日本の近代史の中で、子どもの暮らしと文化がどのように育まれてきたのか、その変化や普遍性、そして未来への継承や希望について、本展監修者の春日明夫氏にお話をお聞きます。

*戦時中に世田谷に居を構えていた造形家・佐藤忠良が描いた紙芝居『平和のちかい「原爆の子」より』の朗読も行います。

(協力:菊池好江、世田谷おはなしネットワーク)

日時:11月2日(日) 14:00~15:30

会場:生活工房 4F ワークショップルーム A

講師:春日明夫(芸術学博士、東京造形大学名誉教授)

対象:どなたでも

参加費:500円

定員:50名(申込先着)

申込方法:8月25日(月)10:00より生活工房ウェブサイトからお申込みください

2 「すごろくあそびば」

ギャラリーで展示している大正時代~昭和40年代のすごろくの複製をつかって、自由にすごろくあそびができる場を設けます。

日時:11月2日(日)、11月3日(月・祝) 11:00~17:00頃

会場:生活工房 4F ワークショップルーム B

参加無料、申込不要(当日直接会場へ)、貸出用サイコロあり

3 「アートなサイコロをつかって、昭和のすごろくであそぼう！」

立方体の木地に絵の具やカラーペンで色をぬってサイコロをつくります。オブジェにもなるオリジナルサイコロをつかって、あそんでみましょう。

日時:11月3日(月・祝) ①13:00~14:30 ②15:30~17:00

会場:生活工房 4F ワークショップルーム A

対象:どなたでも(小学3年生以下は保護者同伴)

参加費:500円

定員:各回20名(申込先着)

申込方法:8月25日(月)10:00より生活工房ウェブサイトからお申込みください

■関連企画

上映会&トークイベント「昭和100年にみるホームムービー」

生活工房による8ミリフィルム・アーカイブ事業「穴アーカイブ」は、今年で10周年を迎えました。節目となる今回は、小説家・滝口悠生さんが選んだフィルムを鑑賞しながら、記録に残ったもの、残らなかったものについて考えます。

日時:2025年9月27日(土)14:00~16:00

ゲスト: 滝口悠生(小説家)
進行: 松本篤(remo / AHA!世話人)
参加費: 500 円(当日現金のみ)
定員: 50 名(申込先着)
申込方法: 生活工房ウェブサイトにて受付中

広報用画像の貸し出しについて

展覧会広報用の画像をご用意しています。ご希望の際は貸出条件をご確認いただき、下記①～⑨の必要事項を明記のうえ、Eメールにてお申し込みください。

なお、本展紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、掲載前に校正原稿をお送りください。

また、掲載後、掲載誌、URL等を担当宛てにお送りいただきますようお願い申し上げます。

【貸出条件】

- ◆画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ◆画像データは、ご使用后必ず消去してください。
- ◆画像データを第三者に渡すことを禁じます。

【必要事項】

- ① 媒体名 (雑誌名、番組名、WEBサイト名など)
- ② 媒体種別 (新聞、雑誌、フリーペーパー、テレビ、ラジオ、WEBサイトなど)
- ③ 発売、放送、更新等予定日
- ④ 御社名
- ⑤ ご担当者名
- ⑥ ご住所
- ⑦ Eメールアドレス
- ⑧ 電話番号
- ⑨ ご希望の画像番号
 - 画像① (P1掲載) 展覧会チラシ
 - 画像② (P3掲載) 「バンザイヌリエ」 昭和 18 年
 - 画像③ (P4掲載) 少年兵が描かれた団扇 戦時中
 - 画像④ (P4掲載) 絵本「カハイイコドモ」 昭和 15 年
 - 画像⑤ (P4掲載) 「自治振興絵ばなし 国を挙げて」 昭和 15 年
 - 画像⑥ (P4掲載) 戦車の木製玩具 戦時中
 - 画像⑦ (P4掲載) 「輝く日本双六」 小学 2 年生正月号付録 昭和 13 年

生活工房 天野 宛 info@setagaya-ldc.net